

# 大学ファンドを通じた 世界最高水準の研究大学の実現に向けて

## ～国際卓越研究大学制度の概要～

# 1. 制度概要とスケジュール

## 2. 国際卓越研究大学法に基づく基本方針

## 3. 国際卓越研究大学法に基づく助成の考え方について

## 4. 国際卓越研究大学の公募・選定について

# 国際卓越研究大学の 将来像 (イメージ)

大学ファンドによる支援を通じて、  
日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能

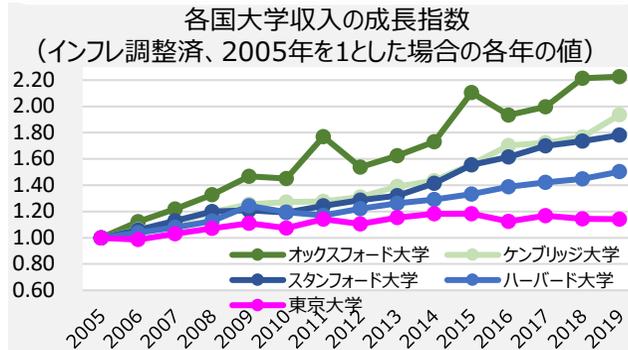


# 10兆円大学ファンドと国際卓越研究大学制度

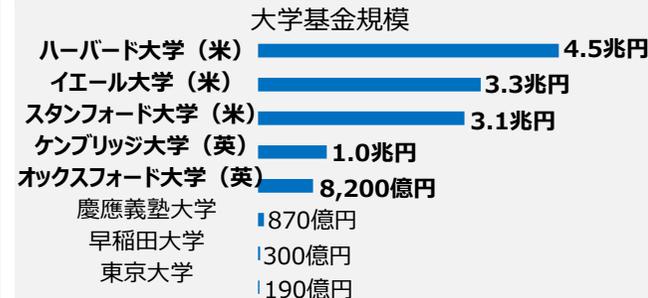
## 背景・課題

- 近年、我が国の研究力は、世界と比べて相対的に低下。他方、**欧米の主要大学は数兆円規模のファンドの運用益を活用**し、研究基盤や若手研究者への投資を拡大。
- 大学は多様な知の結節点であり、最大かつ最先端の知の基盤。我が国の成長とイノベーションの創出に当たって、**大学の研究力を強化することは極めて重要**。
- **研究力を抜本的に強化し、大学を中核としたイノベーション・エコシステムを構築**するため、これまでにない手法による**大胆な投資**が必要。

## 欧米主要大学の収入の成長との比較



## 欧米主要大学の基金規模との比較

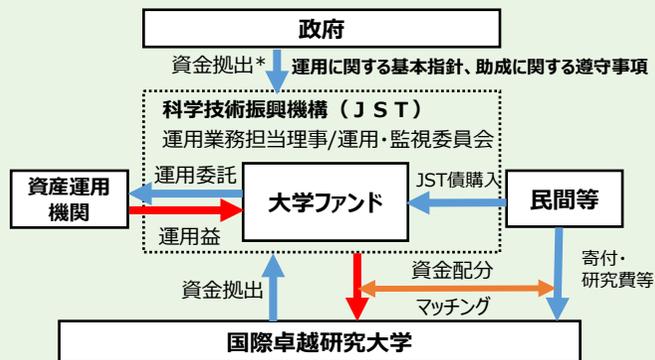


※各大学HP等に基づき作成 (海外大学は2019年数値、国内大学は2020年度数値)

## 事業内容 (10兆円規模の大学ファンドの運用益による国際卓越研究大学への助成)

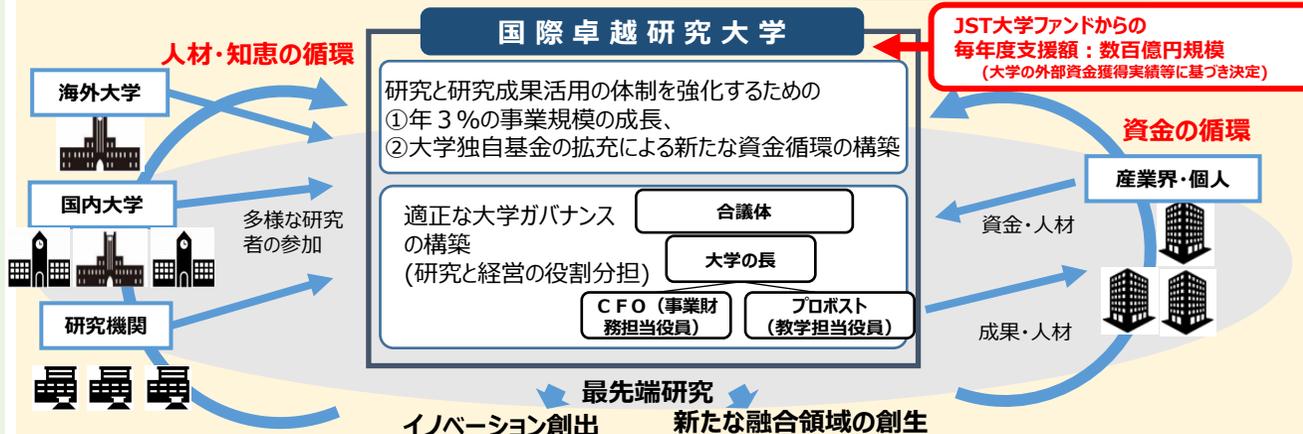
### (10兆円規模の大学ファンド)

- 10兆円規模の大学ファンドを創設し、**国際卓越研究大学の研究基盤への長期的・安定的な支援を最長25年行う**。
- 令和3年度末に**科学技術振興機構(JST)に大学ファンドを設置し、運用を開始**。



### (国際卓越研究大学制度)

- **世界から先導的モデルとみなされる世界最高水準の研究大学の実現**を目指す。
  - ・ 多様な分野の**世界トップクラスの研究者が集まり、活躍するとともに、次世代の研究者を育成**
  - ・ 国内外の若手研究者を惹きつける**多様性と包括性が担保された魅力的な研究環境**を実現し、**我が国の学術研究ネットワークを牽引**
  - ・ 社会の多様な主体と常に対話し、協調しながら、**イノベーション・エコシステムの中核的役割**を果たす



- 国際卓越研究大学の選定にあたっては、文科省に設置したアドバイザーボードにおいて、①国際的に卓越した研究成果を創出できる**研究力**、②実効性高く、意欲的な**事業・財務戦略**、③自律と責任のある**ガバナンス体制**の観点から、**「変革」への意思(ビジョン)とコミットメントの提示**に基づき審査。

\* 初回の公募において、東北大学が国際卓越研究大学に認定 (令和6年11月)。  
\* 現在、第2期公募の審査期間中であり、令和7年度中の認定・認可を予定。

\* 運用元本として、令和4年度までに約10兆円 (政府出資金 = 1兆1,111億円、財政融資資金 = 8兆8,889億円) を措置。  
\* 令和6年度末時点での**運用資産額は、約11.1兆円**。  
令和6年度決算の**収益額は+1,882億円、収益率は+1.7%**。  
\* 令和7年度の助成額は、**当期純利益 (2,560億円)** に前年度のバッファ (資本剰余金) 1,527億円を加えた**4,087億円の1/3 (1,362億円)** を上限に別途決定。

# 国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律の概要

## 趣旨

我が国の大学の国際競争力の強化及びイノベーションの創出の促進を図るためには、国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学について研究及び研究成果の活用のための体制を強化することが重要であることに鑑み、当該体制の強化の推進に関する基本方針の作成、国際卓越研究大学の認定、国際卓越研究大学の研究等の体制の強化のための事業の実施に関する計画の認可、当該事業に関する国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による助成等について定める。

## 制度のポイント

国公私の設置形態にかかわらず、**世界と伍する研究大学となるポテンシャルのある大学を認定し、大学ファンドによる助成等**、総合的な支援を行う。

## 概要

### 1. 基本方針の策定等【第2条、第3条関係】

- **国際卓越研究大学の認定、計画の認可、JSTの助成等に関する基本方針**を文部科学大臣が策定。
- 国は、研究者の自主性の尊重その他の大学における教育研究の特性に配慮。

### 2. 国際卓越研究大学の認定【第4条関係】

- 以下の①、②に関して一定の基準を満たす大学を、国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学**(国際卓越研究大学)**として文部科学大臣が認定。  
① **研究及び研究成果の活用の実績・体制** ② **効果的な資源配分等を行う運営体制、研究と管理運営の業務の役割分担等の業務執行体制、財政基盤**

### 3. 計画の認可・JSTの助成等【第5条～第8条関係】

- 国際卓越研究大学の①**研究等の体制強化の目標**、②**目標を達成するための事業内容**、③**資金の額及び調達方法**等を記載した**計画を文部科学大臣が認可**。
  - ・ 事業の内容：研究環境の整備充実、若年研究者の育成、国際的に卓越した能力を有する研究者等の確保、研究成果活用のための技術者等の育成、研究成果活用のための環境の整備充実
- **JSTは基本方針に即して文部科学大臣の認可を受けて実施方針を定め、②に関し助成**。

### 4. 報告の徴収等及び認定・認可の取消し【第4条、第9条～第11条関係】

- 文部科学大臣による認可計画の実施状況に関する**報告の徴収等**。
- **認定・認可基準を満たさなくなったとき等**には文部科学大臣による**認定の取消し、計画認可の取消し**。

### 5. 附則(関係法令の一部改正等)

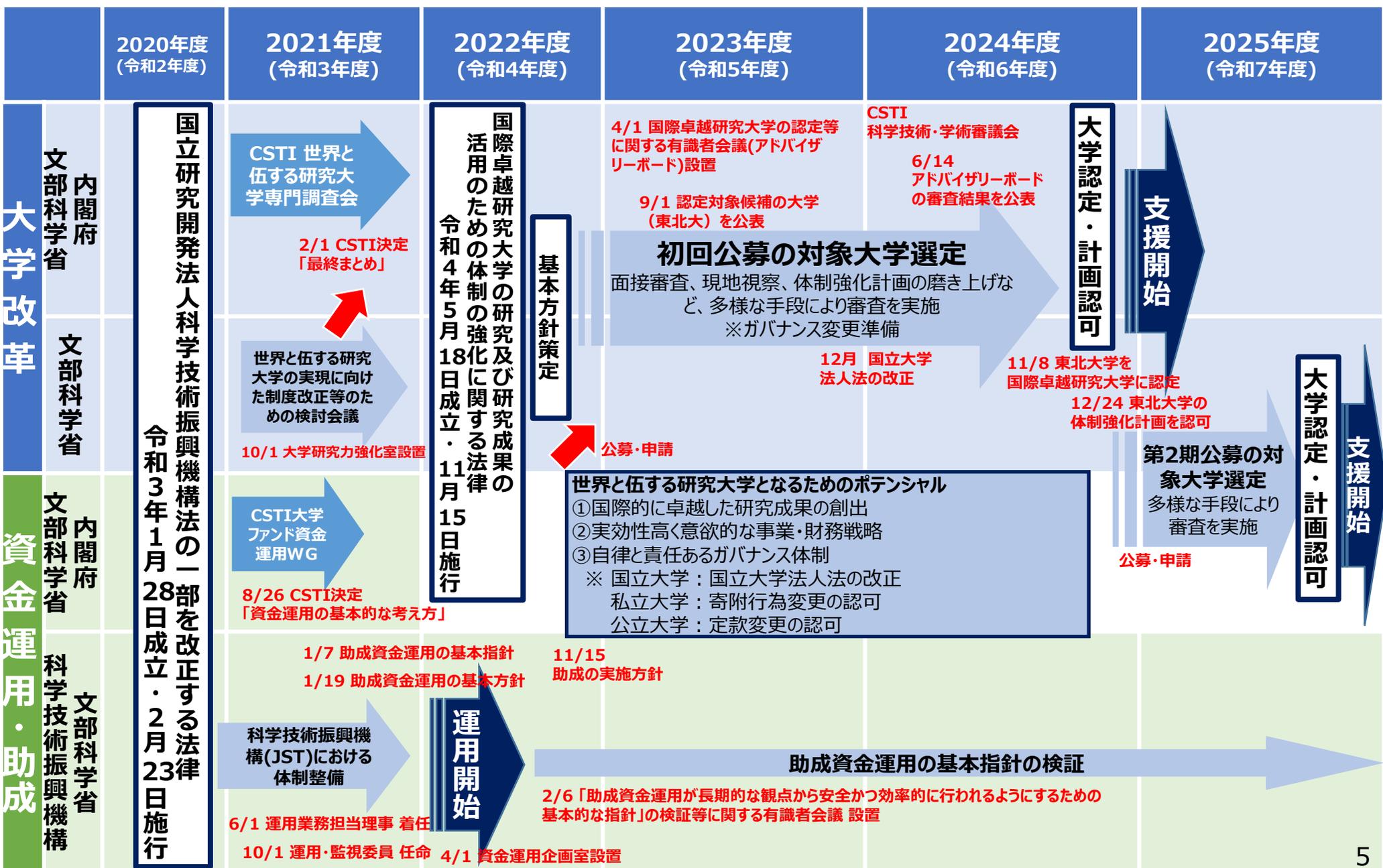
- 国際的に卓越した研究の展開及び経済社会に変化をもたらす研究成果の活用が相当程度見込まれる大学について、大学の経営に係る重要事項の決定及び実施に、多様な専門的知見を有する者の参画が得られるようにするため検討を行い、特に国立大学法人の経営管理体制の改革を早急に進める。
- 3. の助成に係るJSTの業務の範囲の追加。等

※基本方針の策定、国際卓越研究大学の認定、計画の認可、助成の実施方針の認可等に当たっては、**総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)からの意見聴取**等を行う。

## 施行期日

公布の日から起算して六月を超えない範囲内において政令で定める日

# 大学ファンドに関するスケジュール



1. 制度概要とスケジュール

**2. 国際卓越研究大学法に基づく基本方針**

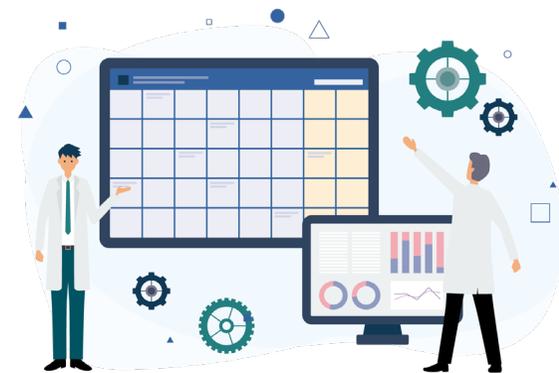
3. 国際卓越研究大学法に基づく助成の考え方について

4. 国際卓越研究大学の公募・選定について

# 国際卓越研究大学法に基づく基本方針の主なポイント①

## 1. 国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化の推進の意義と目標

- 多様な分野の**世界トップクラスの研究者**が集まり、**次世代の研究者を育成**できる機能を強化（世界から先導的モデルとみなされる世界最高水準の研究大学）
- 国内外の若手研究者を惹きつける**多様性と包括性**が担保された**魅力的な研究環境**を実現し、**学術研究ネットワークを牽引**
- 社会の多様な主体と常に対話し、協調しながら、**イノベーション・エコシステムの中核的役割**を果たす



## 2. 国際卓越研究大学の認定に関する基本的な事項

### 判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への**意思(ビジョン)とコミットメントの提示**に基づき実施。

### 大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。また、大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う。

### 要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. **国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力**

2. **実効性高く、意欲的な事業・財務戦略**

3. **自律と責任のあるガバナンス体制**

### 公募期間

**数か月**確保。審査においては、研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施。



# 国際卓越研究大学法に基づく基本方針の主なポイント②

## 3. 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する基本的な事項

### 3- (1) 研究体制強化の目標

- 目標には、アウトプットだけでなく、**アウトカムについて記載**

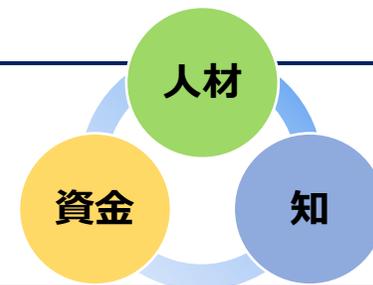
個々の事業の結果、整備される研究環境や人材の数（外国人研究者の割合の向上を含む）等のアウトプットだけでなく、アウトカム(研究水準の向上、研究成果の活用がもたらすインパクト等)について記載。

- 世界の学術研究ネットワークを牽引、イノベーションを常に創出し続ける**マネジメント・システムの全体像を提示**

制度の趣旨を踏まえ、各大学が計画を作成する際には、**世界トップレベルの研究大学をベンチマーク**することとし、世界の学術研究ネットワークを牽引するに足る高い研究水準の達成を図り、新たな研究領域やイノベーションを常に創出し続けるマネジメント・システムの全体像を提示。

### 3- (2) 事業の内容、実施方法及び実施時期

国際卓越研究大学は、**人材・知・資金の好循環**を生み出すことができるよう、価値創造や社会課題解決に資する研究基盤への投資だけでなく、大学の持続的成長に向けて、自然科学のみならず人文・社会科学を含め、**長期的視野に立った新たな学問分野や若手研究者への投資など、次世代の知・人材の創出**にも取り組む。



#### イ. 国際的に卓越した科学技術に関する研究環境の整備充実

(例)

- ◆ 研究実証施設や融合研究センター、共用機器やデータ連携基盤を含めた最先端の研究インフラの戦略的整備・更新・維持

#### ロ. 優秀な若年の研究者の育成及び活躍の推進

(例)

- ◆ 安定した若手ポストの確保
- ◆ 博士課程学生の経済的支援
- ◆ 海外研修

#### ハ. 国際的に卓越した能力を有する研究者の確保、研究の支援又は研究成果の活用のために必要な技術者等の確保

(例)

- ◆ 学内人事制度の構築、家族の滞在に係る支援
- ◆ URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の専門職人材のポストの確保
- ◆ 国際研究協力を支える事務職員、ファンドレイザーや財務専門職員等の確保

#### ニ. 研究の支援又は研究成果の活用のために必要な技術者等の育成

(例)

- ◆ URA等の研究マネジメント人材や技術職員等の専門職人材、ファンドレイザーや財務専門職員等のキャリアパスの構築
- ◆ 国内外における研さん機会の拡大、資格取得支援

#### ホ. 研究成果の活用のために必要な事業を行うための環境の整備充実

(例)

- ◆ 大学発スタートアップの創出拠点や大型産学共創拠点の形成
- ◆ 大学発スタートアップ育成に向けたギャップファンド運営・直接投資
- ◆ 国内外のアクセラレーターとの連携によるスタートアップを対象としたアクセラレーションプログラムの展開

# 国際卓越研究大学法に基づく基本方針の主なポイント③



## 3. 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する基本的な事項

### 3 - ( 3 ) 国際卓越研究大学研究等体制強化計画の認可に関する具体的な基準

#### ① 基本方針に記載された事項に照らして適切なものであること。

イ. 目指すべき姿の実現に向けて、**世界の学術研究ネットワークを牽引し**、新たな研究領域やイノベーションを常に創出し続けるマネジメント・システムを構築するため、**既存の制度に縛られず、学内外の叡智を結集して取組を進めていく計画**であること。特に**研究上のポテンシャルを向上し続ける方策**が示されていること。

ロ. 財務戦略について、これまでの取組に応じた実効性のあるものとなっており、**外部資金の獲得状況(年平均5%程度以上の増加)等を基に、継続的な事業成長(年平均3%程度の支出成長率)を果たすことの蓋然性が高いこと**。また、持続的な成長のために必要な運用益を生み出せるだけの規模の**大学独自基金の造成の実現可能性**が高いこと。

ハ. 新たな研究領域の創出や若手研究者への支援など、次代を見据えたビジョンの具現化に向け、自律的財政基盤を強化し、**資金循環の形成と学内の資源配分を行うことができるガバナンス**を有すること。特に、**合議制の機関、教学担当役員(プロボスト)、事業財務担当役員(CFO)**について、有効に機能するようなマネジメント・システムとなっていること。

② 国際卓越研究大学研究等**体制強化計画の内容が円滑かつ確実に実施**されると見込まれること。

③ 国際卓越研究大学研究等体制強化計画に基づき実施する事業が、国際卓越研究大学の**研究及び研究成果の活用のための体制の強化に資するもの**であることが合理的に説明されていること。

### 3 - ( 4 ) 計画期間

◆ 短期的な成果主義に流されず、**長期的に大学の取組や活動を後押し**。

◆ **計画期間は最長で25年**とし、その範囲内で大学自ら、目標や計画と併せて設定。

◆ **厳格な結果責任**を求める観点から、一定期間(6年~10年を目安)ごとに、**支援の継続の可否に係る評価**を実施。9

# 国際卓越研究大学法に基づく基本方針の主なポイント④

## 4. 国際卓越研究大学研究等体制強化助成に関し、国立研究開発法人科学技術振興機構が遵守すべき基本的な事項

### 継続的・安定的に助成

- ◆ 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)は、基本方針に即して、助成の実施方針を定め、体制を整備し、当該助成の適切な実施を図る。
- ◆ 認可計画に基づく各国際卓越研究大学への助成額は、大学ファンドの運用益からの助成総額の範囲内で、**外部資金獲得実績や大学ファンドへの資金拠出額を踏まえて算定**。
- ◆ 国際卓越研究大学制度の趣旨を踏まえ、**助成金の使途については、可能な限り、各国際卓越研究大学の自律性とその責任の下、柔軟かつ適切に決定**され、当該大学が適切に説明責任を果たしていくことが必要。大学の財政基盤の自律化が果たされるまでの間、**継続的・安定的に助成**。

## 5. 科学技術の振興及びイノベーションの創出の促進に関する施策その他の関連する施策との連携に関する基本的な事項

### 国際的な頭脳循環のハブとして牽引

- ◆ **国際卓越研究大学への支援と総合振興パッケージによる地域中核・特色ある研究大学への支援、全国的な博士人材の育成強化**が相まって、初めて、**我が国全体の研究力の向上**が図られることについて、幅広い産学官の関係者により理解が共有されることが重要。
- ◆ 国際卓越研究大学は、知的資産の形成と社会的な価値創造やイノベーション創出の中核拠点として、**国際的な頭脳循環のハブ**となるとともに、全国の大学等との連携を強化することで人材の流動性の向上や共同研究の促進等を図るなど、**学術研究ネットワークを牽引する責務**を負う。

## 6. その他国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化の推進に関する重要事項

### 双方向型の環境整備

- ◆ 規制の緩和や寄附の促進等についても、引き続き必要な検討を進めるとともに、審査の過程や意見交換等を通じて現場の具体的なニーズを把握しつつ、**大学から規制緩和等を提案する機会**を設けるなど、**双方向型のコミュニケーションを行う環境を整備**する。



# (参考) 国際卓越研究大学の認定に関する基準

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への意思(ビジョン)とコミットメントの提示に基づき、認定。

法第4条第3項の項目	国際卓越研究大学の認定に関する具体的な判断基準
<p>① 国際的に卓越した研究の実績</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界トップレベルの研究大学に伍していくことができるだけの研究力を有しているか、また、自然科学と人文・社会科学の融合による総合知の創出など、多様な分野で先導的な研究が行われているかについて確認。</li> <li>注目度の高い論文(Top10%論文数や割合)が、将来的に世界最高水準の研究大学に匹敵するものとなることが相当程度見込まれるものとして、以下のいずれかの要件に合致すること。             <ul style="list-style-type: none"> <li>Top10%論文数が1,000本程度(直近の5年間総計)以上となっていること&lt;卓越した研究が多様な分野で行われていることを確認&gt;</li> <li>総論文数に占める被引用数Top10%論文数の割合が10%程度以上となっていること&lt;卓越した研究が高い割合で創出されていることを確認&gt;</li> <li>または</li> <li>研究者一人当たりのTop10%論文数において、優れた実績(0.6本程度以上)を有すること&lt;規模によらず、成果の実績を確認&gt;</li> </ul> </li> </ul>
<p>② 経済社会に変化をもたらす研究成果の活用の実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済社会に変化をもたらす研究成果の活用(経済的・社会的価値創造への貢献)の実績を確認。</li> <li>民間企業等からの研究資金等受入額が、将来的に世界最高水準の研究大学に匹敵するものとなることが相当程度見込まれるものとして、現状、年平均10億円程度以上となっていること。または、研究者一人当たりの研究資金等受入額において、優れた実績(100万円程度以上)となっていること。</li> </ul>
<p>③ 教員組織及び研究環境等の研究の体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の研究体制が、新たな学問分野や融合領域に迅速に対応しているかを確認。</li> <li>多様な分野の学術研究ネットワークの牽引の状況に加え、国際研究協力に係る体制、若手・女性・外国人研究者の登用・活躍に係る体制、事務職員や研究マネジメント人材、専門職人材の配置、研究施設及び研究設備、研究インテグリティの確保体制等について、国際競争力の強化の観点から適切に整備されていること。特に外国人研究者の割合が将来的に世界最高水準の研究大学に匹敵するものとなることが相当程度見込まれること。</li> </ul>
<p>④ 民間事業者との連携協力体制等の研究成果の活用の体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者との連携協力等の実施を通じて、申請に係る大学の研究成果の活用の体制が整備されているかを確認。</li> <li>全学的な産学連携の体制、「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」等を踏まえた体制、スタートアップの支援体制、実践的な起業家教育プログラム等が適切に整備されていること。</li> </ul>
<p>⑤ 効果的な資源の確保及び配分等の行える運営体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究及び研究成果の活用に必要な資金・人材の確保・配分、知的財産権の取得・活用を行う体制が構築されるとともに、大学の教育研究活動、国内外の大学の経営、大学における国際化の推進、研究成果の活用、法律及び会計その他の大学の運営に関連する事項に関し、適切な知識、能力、経験を有する者を構成員とする合議制の機関が設置されていること。</li> <li>当該合議制の機関が、国際卓越研究大学研究等体制強化計画の作成・変更など大学の運営に関する重要事項の議決及び当該体制強化計画に関する業務の執行状況の監督を行うこと。</li> <li>監事の少なくとも一人は常勤となっており、独立した専門の監査部門を有しているなど、当該大学の業務に関する監査が実効的に行われることを確保するための体制となっていること。</li> </ul>
<p>⑥ 研究に関する業務と管理運営に関する業務の適切な役割分担等の業務執行体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人の代表者、教学担当役員(プロボスト)、事業財務担当役員(CFO)が適切に配置され、効果的・効率的に役割が果たせるような体制が構築されているなど、権限と責任の分担を的確に行う業務執行体制が整えられていること。</li> </ul>
<p>⑦ 国際的に卓越した研究等を持続的に発展させるために必要な財政基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政基盤の成長性が極めて重要であることから、資産活用や寄附金等を含めた財源の多様性を確認することとし、大学の収入全体(ただし、当該大学の附属病院に係るものは除く。)から国又は地方公共団体が支出する運営費交付金や私立大学等経常費補助金等の基盤的経費や学生からの授業料や検定料等を除いた額の大学の収入全体に占める割合が、将来的に世界最高水準の研究大学に匹敵するものとなることが相当程度見込まれるものとして、直近5年間の平均で20%程度以上となっていること。</li> </ul>

1. 制度概要とスケジュール

2. 国際卓越研究大学法に基づく基本方針

**3. 国際卓越研究大学法に基づく助成の考え方について**

4. 国際卓越研究大学の公募・選定について

# 国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施に関する方針関連規定

## 国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律（抄）

(国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施に関する方針)

第八条 **機構は、基本方針に即して、**文部科学省令で定めるところにより、**国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施方法及び実施条件その他の国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施に必要な事項に関する方針**(以下この項及び第三項において「実施方針」という。)を定め、**文部科学大臣の認可を受けなければならない。**実施方針を変更しようとするときも、同様とする。

2 文部科学大臣は、前項の認可をしようとするときは、内閣総理大臣及び財務大臣に協議するとともに、総合科学技術・イノベーション会議の意見を聴かなければならない。

3 機構は、第一項の認可を受けたときは、その実施方針を公表しなければならない。

## 国際卓越研究大学法に基づく基本方針

第三九(2)国際卓越研究大学研究等体制強化計画に基づく国際卓越研究大学への助成額の算定

- **大学ファンドからの毎年度の助成総額は、**関係府省が参加する会議体において、大学ファンドの運用益の状況や財務の健全性確保を考慮しつつ決定する。また、その額の範囲内で、大学の自律的な経営能力の向上や多様な財源確保を促す観点から、体制強化計画やその進捗状況を踏まえ、**外部資金の獲得実績や大学ファンドへの資金拠出などに応じて、個々の大学への助成額を決定**する。
- このうち、**外部資金については、**公的資金（国又は地方公共団体が支出する運営費交付金や私立大学等経常費補助金等の基盤的経費や競争的資金などの個別のプロジェクト、活動の支援に充てる目的で国等が支出する資金）以外とし、獲得実績については平準化を図るため、過去5年間の平均を基準とするとともに、**外部資金獲得がインセンティブとなるよう、外部資金獲得額に係数を乗じた金額を助成額として措置**することとする。
- **大学ファンドからの助成については、大学の経営の自律性とその責任下で、柔軟かつ適切に使用**されるよう、その用途として支出できる経費は、国際卓越研究大学が体制強化計画に掲げる取組に係るもの全般とし、助成元である機構においてあらかじめ使途の内訳は特定せず、執行に当たっても、体制強化計画への適合性の確保を前提として機構の事前の関与を受けない助成形態とする。さらに、支援の継続の可否に係る評価の時期を除き、機構の事前の関与を受けることなく各国際卓越研究大学の判断で翌年度以降に繰り越すことができるように措置する。
- なお、文部科学省は法第9条及び規則第9条又は法第10条に基づき、国際卓越研究大学に対して、助成金の使途について助成を行った年度の翌年度の6月末までに報告を求め、これを速やかに公表し、**事後的な透明性の確保**を図ることとする。

# 国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施に関する方針の主なポイント

## 一 助成の実施方法及び実施条件

### 1. 助成の実施方法

- ◆ 科学技術振興機構(JST)は、国際卓越研究大学研究等体制強化助成を実施するために必要な機能・体制を整備。
- ◆ 助成の対象は、国際卓越研究大学における文部科学大臣の認可を受けた国際卓越研究大学研究等体制強化計画(以下、**体制強化計画**)に記載された法第5条に掲げる事業に関するものとし、**その用途は各国際卓越研究大学の自律性とその責任の下、柔軟かつ適切に決定。**
- ◆ JSTは、基本方針及び文部科学省における助成の考え方を踏まえ、当該年度の助成総額の範囲内で、各国際卓越研究大学の当該年度の助成限度額を算定。

#### <文部科学省における助成の考え方>

各国際卓越研究大学の助成額は、以下で構成。

##### ①研究等体制強化促進分

各国際卓越研究大学の外部資金獲得額(公的資金を除く)の5年平均を基に算定。

##### ②大学成長基盤強化促進分

各国際卓越研究大学の自己財源より大学独自基金に積み上げた額  
+ 各国際卓越研究大学の自己財源より大学ファンドへ資金拠出(出えん)した額を基に算定。

- ◆ JSTは、各国際卓越研究大学に、**条件等の確認等を行った上で、助成限度額の範囲内で助成金を交付。**

### 2. 助成の実施条件

- ◆ JSTは、助成金を交付する際に、以下の**実施条件等について各国際卓越研究大学に確認。**
  - ✓ 合議制の機関による監督及び監事等による**内部監査システムを通じた組織的なコンプライアンス体制の構築**を図るとともに、法令等を遵守し、善良なる管理者の注意をもって、**適正かつ誠実に体制強化計画を実施**すること。
  - ✓ **他の公的資金と同様に適切な管理及び執行**を行い、公正かつ効果的、効率的な執行に努めること。
  - ✓ 成果や取組の進捗などを積極的に発信するとともに、**助成金の用途について適切に説明責任**を果たすこと。

## 二 国際卓越研究大学研究等体制強化助成の業務に関連する業務との調整に関する事項

運用業務との連携 ◆ 運用業務との連携を適切に図り、適宜情報共有を行うなど、**助成の継続的・安定的な実施**に努める。

## 三 国際卓越研究大学研究等体制強化助成の実施に必要なその他の事項

不適切な事象等への対応等 ◆ JSTは、助成金の管理及び執行に関して不適切な事象等が発生した場合は、**助成金の執行の停止、返還**に関する手続等を適切に行う。

1. 制度概要とスケジュール

2. 国際卓越研究大学法に基づく基本方針

3. 国際卓越研究大学法に基づく助成の考え方について

**4. 国際卓越研究大学の公募・選定について**

# 大学ファンドの支援対象となる国際卓越研究大学の公募・選定について

## 1. 公募・選定のポイント

### 判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への**意思(ビジョン)とコミットメントの提示**に基づき実施。

### 大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。また、大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う。

### 要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. **国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力**

2. **実効性高く、意欲的な事業・財務戦略**

3. **自律と責任のあるガバナンス体制**

### 審査体制

総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制（アドバイザーボード）を構築。

### 段階的審査

審査においては、**研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施**（書面や面接による審査だけでなく、**現地視察、体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施**）。



## 2. 第2期公募のスケジュール

令和6年12月 公募開始

令和7年 5月 公募締切（認定基準確認書／体制強化計画（第一次案）等提出）

令和7年 6月～ 段階的審査（夏～冬頃にかけて段階的に絞り込み。大学側との丁寧な対話。）

国際卓越研究大学 認定 / 体制強化計画 認可

助成開始（令和7年度中を予定）

令和8年 4月※～ 体制強化計画 開始 ※アドバイザーボードにおける審査の結果、留保条件付きで認定候補に選定された大学の計画初年度については、この限りでない。



# 国際卓越研究大学の認定・研究等体制強化計画の認可の審査の流れ（イメージ）

同時申請

## 【国際卓越研究大学認定の申請】

大学は認定基準のいずれにも該当していることを証する書類を添えて、文科大臣に提出

## 【研究等体制強化計画の申請】

大学は以下を記載した計画を文科大臣に提出

- (1)研究等体制強化の目標
- (2)法第5条第2項第2号のイ～ホの事業内容・実施方法・実施時期
- (3)必要な資金の額・調達方法
- (4)その他省令で定める事項

★公募開始

公募期間  
(数か月程度)

★応募〆切

大学認定・計画認可に関する審査  
(段階的審査)

★大学認定&計画認可

助成開始



- ・ 認定・認可の審査プロセスを一体的に実施
- ・ 研究現場の視察や大学側との丁寧な対話を通じて審査を実施



## 大学認定基準・計画認可要件

### 大学認定基準 [法第4条第3項関係]

※①～⑦のいずれも満たす必要

- ①国際的に卓越した研究の実績を有していること
- ②経済社会に変化をもたらす研究成果の活用の実績を有していること
- ③教員組織及び研究環境等の研究の体制が整備されていること
- ④民間事業者との連携協力体制等の研究成果の活用の体制が整備されていること
- ⑤効果的な資源の確保及び配分等の行える運営体制が整備されていること
- ⑥研究に関する業務と管理運営に関する業務の適切な役割分担等の業務執行体制が整備されていること
- ⑦国際的に卓越した研究等を持続的に発展させるために必要な財政基盤を有していること

### 計画認可要件 [法第5条第2項関係]

※①～③のいずれも満たす必要

- ①基本方針に適合するものであること
- ②円滑かつ確実に実施されると見込まれるものであること
- ③当該大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に資するものであること

# 国際卓越研究大学の認定等に関する審査体制について

## 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

有識者議員等のうち、数名が参加

## 文部科学省 科学技術・学術審議会

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

大学研究力強化部会の委員等のうち、数名が参加

## 国際卓越研究大学 アドバイザリーボード



## 審査事務局（文部科学省）

①国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力

②実効性高く、意欲的な事業・財務戦略

③自律と責任のあるガバナンス体制

国内外のレビュアー



内閣府

連携

情報提供

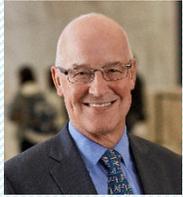
NISTEP

（参考）国際卓越研究大学法に基づく基本方針（抜粋）

### 3 総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会への意見聴取

科学技術・イノベーション政策における国際卓越研究大学制度の重要性に鑑み、文部科学大臣は、国際卓越研究大学の認定に当たり、法第4条第4項の規定に基づき、あらかじめ、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴かなければならないこととされている。その際、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築するとともに、アカデミアの特性も踏まえつつ、国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえらるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築することとする。

# アドバイザーボードの構成員について



ニューヨーク大学 名誉学長、元ニューヨーク大学 学長、元オクスフォード大学 学長、元イェール大学 プロボスト  
President Emeritus, New York University.  
Former President, New York University / Former Vice-Chancellor, University of Oxford / Former Provost, Yale University.

**アンドリュー・D・ハミルトン/Andrew D. Hamilton**



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員  
(一社)産業競争力懇談会 エグゼクティブアドバイザー  
Executive Member, Council for Science, Technology and Innovation  
Executive Adviser, Council on Competitiveness-Nippon

**梶原 ゆみ子/Kajiwara Yumiko**



フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO  
CEO, Future Co.

**金丸 恭文/Kanemaru Yasufumi**



大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長  
国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長  
President, National Institutes of Natural Sciences  
Director, Center for Research and Development Strategy

**川合 眞紀/Kawai Maki**



東北大学 総長特別顧問  
経済産業省 特別顧問 (科学技術担当)  
Executive Adviser, Tohoku University  
Special Advisor on Science and Technology to the Ministry of Economy, Trade and Industry

**大野 英男/Ohno Hideo**



日本電信電話株式会社(NTT) 相談役  
(一社)日本経済団体連合会・デジタルエコノミー推進委員会委員長  
Executive Advisor, Nippon Telegraph and Telephone Corporation (NTT)  
Chair of the Committee on Digital Economy, Japan Business Federation (Keidanren)

**篠原 弘道/Shinohara Hiromichi**



シンガポール科学技術研究庁長官他、元シンガポール国立大学 学長  
Permanent Secretary (National Research and Development) / Permanent Secretary (Public Sector Science and Technology Policy and Plans Office), Prime Minister's Office / Chairman, Agency for Science, Technology and Research / Chairman, MOH Office for Healthcare Transformation / Former President, National University of Singapore

**タン・チョー・チュアン/Tan Chorh Chuan**



内閣府本府参与 (科学技術・イノベーション担当)  
Special Advisor Science, Technology and Innovation Cabinet Office, Government of Japan

**上山 隆大/Ueyama Takahiro**



ウィルトン・ストラテジー社CEO  
元UCバークレー 副学長、元シンガポール国立大学 副学長  
CEO, Wilton Strategy Inc.  
Former Vice President, University of California, Berkeley / Former Vice President, National University of Singapore

**ジョン・ウィルトン/John Wilton**



NTT Research, Inc. Physics & Informatics Laboratories (PHI Lab)所長、スタンフォード大学名誉教授、国立情報学研究所名誉教授  
Director of Physics & Informatics Laboratories, NTT Research / Professor (emeritus), Stanford University / Professor (emeritus), National Institute of Informatics

**山本 喜久/Yamamoto Yoshihisa**



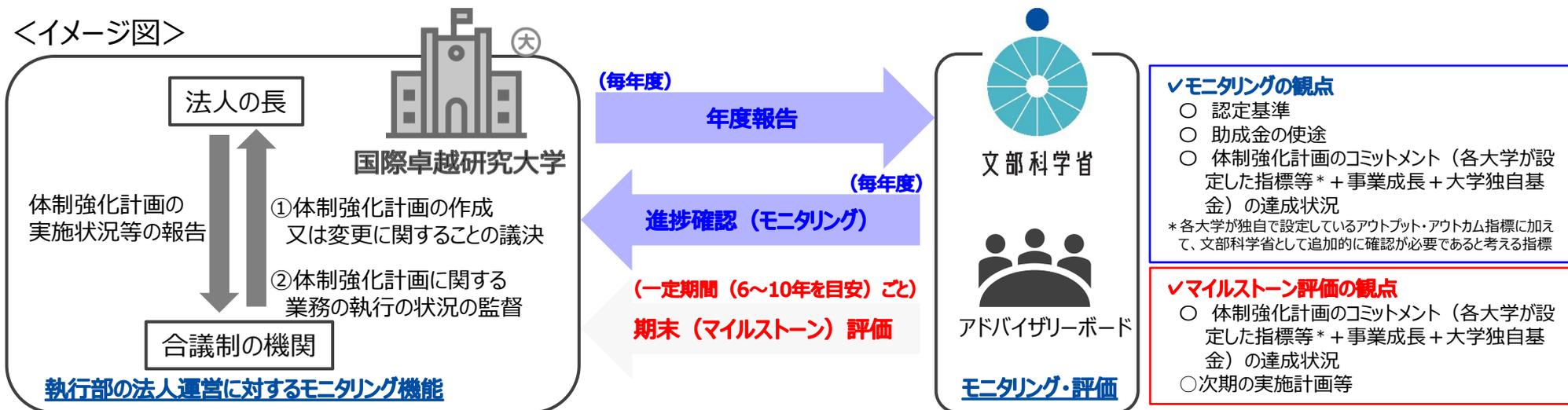
福島国際研究教育機構 理事長、元金沢大学 学長  
President, Fukushima Institute for Research, Education and Innovation  
Former President, Kanazawa University

**山崎 光悦/Yamazaki Koetsu**

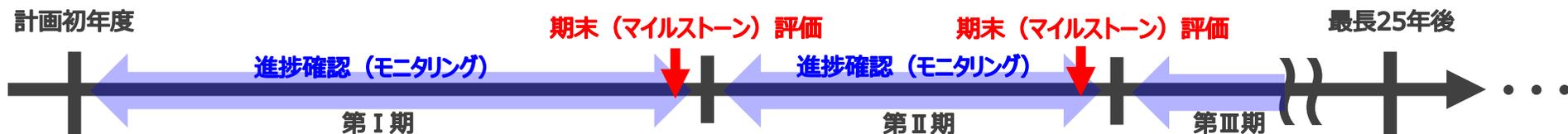
# モニタリング・評価について

- **国際卓越研究大学は**、世界最高水準の研究大学の実現に向けて、「自律と責任のあるガバナンス体制」が求められており、国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律第4条第3項第5号及び国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化に関する法律施行規則第2条第5項第1号の規定に基づき、**合議制の機関において、体制強化計画に関する業務の執行の状況の「監督」**を行う。
- **国際卓越研究大学は**、法第9条及び規則第9条又は法第10条の規定に基づき、**毎年度、体制強化計画の実施状況の概要や助成金の使途等について、文部科学大臣に「年度報告」**を行う。
- **文部科学省は**、コミットメントの達成状況等について、**毎年度、年度報告を用いて書面により「進捗確認（モニタリング）」**を行うことを基本とし、**特段の問題がなければ、支援を安定的に実施**する。モニタリングにおいて、アドバイザーボードの座長が、体制強化計画の円滑かつ確実な実施を確保するために要すると判断する場合等は、**必要に応じてアドバイザーボードより大学に助言等**を行う。
- 体制強化計画の実施状況について、厳格な結果責任を求める観点から、審査の過程で決定する**一定期間（6年～10年を目安）ごとに、支援の継続可否に係る「期末（マイルストーン）評価」**をアドバイザーボードにおいて実施し、中長期的な観点から結果責任を問う。

<イメージ図>



<スケジュール>



# 參考資料

# 多様で厚みのある研究大学群の形成に向けた支援の在り方について

**国際卓越研究大学が、世界最高水準の研究大学へと成長し、日本全体の研究力向上を牽引していくためには、大学ファンドによる支援を通じて大学の機能拡張を加速することが重要。同時に、多様で厚みのある研究大学群の形成に向けては、地域の中核・特色ある研究大学等への支援を一体的に進めていくことが必要。**

## 日本全体の研究力発展を牽引する研究システムを構築



### 大学の研究基盤の強化

- **共同利用・共同研究機能の強化**や分野・組織に応じた研究基盤の共用を推進(例：共同利用・共同研究システム形成事業学際領域展開ハブ形成プログラム)\*
- 研究・産学連携等を目的とした**拠点形成やインフラの強化**(例：世界トップレベル研究拠点プログラム、共創の場形成支援プログラム、スタートアップ・エコシステム共創プログラム、施設整備の新增改築)\*
- 基盤的経費や競争的研究費（人材育成、基礎研究振興、産学連携促進）による支援を通じた全国の国公立大学の**研究力の向上**

\*国際卓越研究大学の体制強化計画に記載され助成の対象となる取組と当該事業による取組で重複が生じないものについて支援

### 高等教育全体の活性化・質の向上

- 大学教育の質の向上に関する改革を推進するため、国公立の設置形態を超えた競争的環境の下、**大学の優れた取組を重点的に支援\***

(例：卓越大学院プログラム、大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業)

\*国際卓越研究大学であることをもって各事業からの支援の扱いに差異を設けない。ただし、研究に係る支援が含まれる場合には、国際卓越研究大学の体制強化計画に記載され助成の対象となる取組と当該事業による取組で重複が生じないものについて支援

### 大学ファンドからの博士課程学生支援

- 優秀で志のある博士後期課程学生が研究に専念するための**経済的支援(生活費相当額及び研究費)**及び博士人材が産業界等を含め幅広く活躍するための**キャリアパス整備(企業での研究インターンシップ等)**を一体として行う**実力と意欲のある大学を支援\***

\*原則として、国際卓越研究大学については、国際卓越研究大学の体制強化計画初年度から、次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）の支援対象から除くものとする（前年度からの博士後期課程学生の継続支援分も含む）

※地域中核・特色ある研究大学強化促進事業、大学・高専機能強化支援事業、国立大学経営改革促進事業については、各大学のミッションに基づく研究大学の実現等に向けた、経営改革、組織改革に主眼を置き大学全般に対して支援を行う事業であり、国際卓越研究大学が世界最高水準の研究大学の実現に向けた全般的な支援を行う事業であることとの重複が想定されるため、大学ファンドからの助成との重複受給を不可としている。

※競争的研究費（研究・産学連携等を目的とした拠点形成に対する支援を行う事業を除く）については、大学ファンドによる助成と性質が異なるため、国際卓越研究大学であることをもって各事業からの支援の扱いに差異を設けることをしない。（例：科学研究費助成事業、創発的研究支援事業）また、個人への教育研究に係る支援を行う事業についても、国際卓越研究大学に所属することをもって各事業からの支援の扱いに差異を設けることはしない。（例：奨学金制度、特別研究員制度）

### 背景・課題

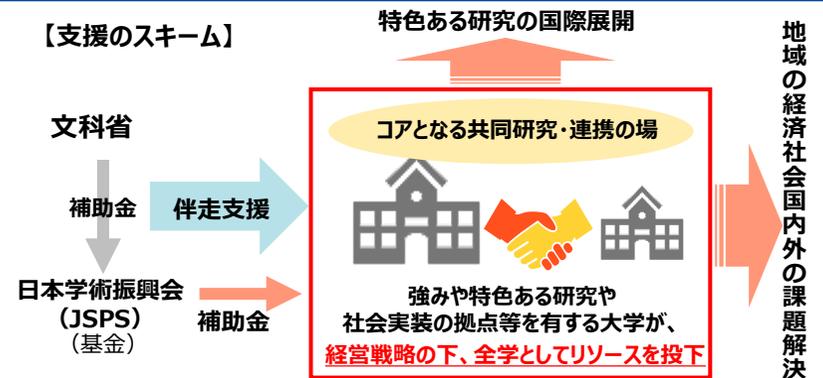
- 近年、我が国の研究力の低下が指摘されている中、**日本全体の研究力の発展をけん引する研究大学群の形成のため**には、大学ファンドによる国際卓越研究大学と、**地域中核・特色ある研究大学\*が共に発展するスキームの構築が必要不可欠**
  - \* ①強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、②地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、③地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、地域課題解決をリードする機能：これらのいずれか又は組み合わせた機能を有する大学
- そのためには、地域中核・特色ある研究大学が、特色ある研究の国際展開や、地域の経済社会や国内外の課題解決を図っていくよう、特定分野の強みを核に大学の活動を拡張させるとともに、大学間での効果的な連携を図ることで、研究大学群として発展していくことが重要

### 事業内容

研究力の飛躍的向上に向けて、**各大学が10年後の大学ビジョンを描き、そこに至るための、強みや特色ある研究力を核とした経営戦略の下**、大学間での連携\*も図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速・レベルアップの実現に必要なハードとソフトが一体となった**環境構築の取組を支援**

\* 連携を行うことが目的ではなく、学内に不足するリソースや課題を戦略的に補完するために連携

#### 【支援のスキーム】



- 強みを有する大学間での連携による相乗効果で、研究力強化に必要な取り組みの効果を最大化
- 特定領域のTOP10%論文が世界最高水準の研究大学並みに
- 強みや特色に基づく共同研究や起業の件数の大幅増加、持続的な成長を可能とする企業や自治体等からの外部資金獲得
- ✓ 研究を核とした大学の国際競争力強化や経営リソースの拡張
- ✓ 戦略的にメリハリをつけて経営リソースを最大限活用する文化の定着

**我が国の科学技術力の飛躍的向上  
地域の社会経済を活性化し課題解決に貢献する研究大学群の形成**

#### 【事業概要】

- 事業実施期間：令和5年度～（5年間、基金により継続的に支援）
- 支援件数：25件（令和5年度採択：12件、令和6年度採択：13件）
- 支援対象：  
**強みや特色ある研究や社会実装の研究拠点**（WPIやCOI-NEXT等の拠点形成事業、地方自治体・各府省施策、大学独自の取組等によるもの）**等を有する**国公私立大学のうち、**研究力の向上戦略を構築した上で、全学としてリソースを投下する大学**
- ※ 5年度目を目途に評価を行い、進捗に応じて、必要な支援を展開できるよう、文部科学省及びJSPSにおいて取組を継続的に支援（最長10年を目途）
- 支援内容：5年間、基金により継続的に支援 最大55億円程度
  - A) **戦略的実行経費**（最大25億円程度（5億円程度／年）／件）  
研究戦略の企画・実行、技術支援等を行う専門人材の件数費、調査その他研究力の向上戦略の実行に必要な経費
  - B) **研究設備等整備経費**（最大30億円程度／件）  
研究機器購入費、研究・事務DX、研究機器共用の推進を含む研究環境の高度化に向けて必要となる環境整備費等

# 日本と海外の比較

	関連データ	日本	海外
<p>世界最高水準の研究環境 (待遇、研究設備、サポート体制等) で、世界トップクラスの人材が結集</p>	<p>注目度の高い論文数(Top10%補正論文数) ※2020-2022年(自然科学系、分数カウント法、平均)</p>	3,719本 (13位)	<p>中国：64,138本 (1位) 米国：34,995本 (2位) 英国：8,850本 (3位)</p>
	<p>大学教授の平均給与(2024年)</p>	<p>東京大学：1,202万円 京都大学：1,098万円 東北大学：1,112万円</p>	<p>ハーバード大学：4,095万円 スタンフォード大学：3,439万円 カリフォルニア大学バークレー校：2,570万円</p>
	<p>教員一人あたりの職員数 ※世界と伍する研究大学専門調査会資料より時点更新</p>	<p>東京大学：0.7人 京都大学：0.8人 東北大学：0.7人</p>	<p>ハーバード大学：3.2人 スタンフォード大学：2.4人 カリフォルニア大学バークレー校：1.9人</p>
	<p>女性研究者比率 ※総務省科学技術研究調査報告（令和6年）より</p>	18.3%	<p>英国：39.0% 米国：34.0% ドイツ：29.4%</p>
	<p>大学発ベンチャー企業設立数 ※経済産業省令和5年度産業技術調査 (大学発ベンチャー実態等調査) 報告書より</p>	506社 (2023年度)	米国 998社 (2021年度)
	<p>英語と日本語を共通言語として、 海外トップ大学と 日常的に連携している 世界標準の教育研究環境</p>	<p>大学院生における留学生の割合 ※大学ランキング (QS、2025年版) より</p>	<p>東京大学：30% 慶應大学：30% 早稲田大学：47%</p>
<p>外国人教員の割合 ※大学ランキング (QS、2025年版) より</p>		<p>東京大学：8% 慶應義塾大学：7% 早稲田大学：15%</p>	<p>ハーバード大学：27% ケンブリッジ大学：52% カリフォルニア大学バークレー校：37%</p>
<p>授業料が免除され、 生活費の支給も受け、 思う存分、研究しながら、 博士号を取得可能</p>	<p>博士号取得者数 (日本：2021年度、米国：2020年度、 ドイツ・中国：2022年度)</p>	15,767人	<p>米国：94,917人 中国：81,887人 ドイツ：27,692人</p>
	<p>博士課程学生への経済的支援 ※世界と伍する研究大学専門調査会資料より</p>	<p>博士課程学生一人あたりの 受給額 (2021年度時点) 180万円以上：16.9% 60～180万円：16.2% 60万円未満：23.3% 受給なし：37.9%</p>	<p>米国の研究大学に所属する博士課程学生の平均受給 額：\$24,700 (約270万円)</p>

# (参考) 初回公募における有識者会議の審査から認定・認可までの経過

## 1. 審査の経過

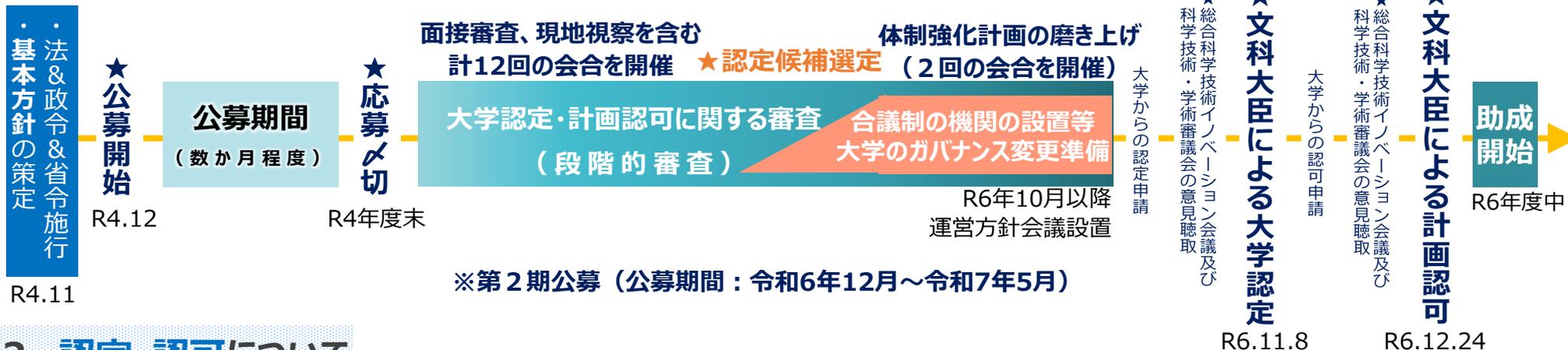
申請のあった10大学について、書面審査や国内外のレビュアーの意見に加えて、大学側との丁寧な対話を実施する方針のもと、**10大学に対して面接審査**を実施。さらに研究現場の状況等を把握するため、**3大学の現地視察**を実施。これらの審査も踏まえ、**初回の国際卓越研究大学の認定候補**として、一定の条件を満たした場合に認定するという留保を付して、**東北大学を選定（令和5年9月公表）**。

東北大学において磨き上げを行った体制強化計画について、その状況を継続的に確認し、東北大学について、**国際卓越研究大学の認定及び計画の認可の水準を満たし得るとの結論（令和6年6月公表）**。

※これまでに**計14回の会合を開催**



アドバイザーボード第1回会合



## 2. 認定・認可について

東北大学において、改正国立大学法人法（令和6年10月施行）に基づき運営方針会議を設置。国際卓越研究大学法に基づき、東北大学の認定について、総合科学技術イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴き、文部科学大臣が認定（令和6年11月）。その後、東北大学が体制強化計画を文部科学省に提出し、意見聴取等の手続きを経て、文部科学大臣が認可（令和6年12月）。

# 我が国の大学研究力強化に関するシンポジウム

名称：我が国の大学の研究力強化に向けて ～国際卓越研究大学制度が拓く研究大学の未来～

主催：文部科学省

共催：国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人日本学術振興会

後援：内閣府

趣旨：我が国の大学研究力強化に向けては、初回公募における国際卓越研究大学の認定が行われ、第2期の公募も予定されている。こうした中で、世界最高水準の研究大学の実現に向けて国際卓越研究大学制度が目指す姿や、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）等の研究大学施策の全体像を示す。また、パネルディスカッションを通じて、今後の研究大学の姿や機能強化等について議論を行う。

日時：令和6年12月17日(火) 10時～13時

場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3丁目5番1号） ※実開催・オンライン配信

資料：

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/daigakukenkyuryoku/symposium\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/daigakukenkyuryoku/symposium_00001.html)

## <当日のスケジュール>

10:00 開会

基調講演

①上山 内閣府CSTI常勤議員

②富永 東北大学総長

③那須 岡山大学学長

④中村 信州大学学長 等

パネルディスカッション

13:00 閉会

## <登壇者>



上山 隆大

内閣府 CSTI 常勤議員  
国際卓越研究大学の認定等に関する  
有識者会議（アドバイザーボード）座長  
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る  
事業推進委員会委員



富永 悌二  
東北大 総長



千葉一裕

東京農工大 学長  
大学研究力強化委員会 主査



橋本 和仁

国立研究開発法人  
科学技術振興機構 理事長



那須 保友

岡山大 学長  
大学研究力強化委員会  
委員



高橋真木子

金沢工業大学大学院教授  
地域中核・特色ある研究大学の振  
興に係る事業推進委員会委員  
大学研究力強化委員会委員



佐藤 康博

内閣府 CSTI 非常勤議員  
大学支援フォーラムPEAKS 座長  
みずほFG特別顧問  
地域中核・特色ある研究大学の振興に係る  
事業推進委員会委員



中村宗一郎  
信州大 学長